解答: 正負の数の加法・減法：符号を見直す練習問題

MomentDesk · https://momentdesk.com/ja/practice/signed-add-subtract/

中1 数学

1. 5

   $13 - 8 = 5$

   絶対値が大きい13は正なので、答えは5です。

2. −8

   $6 - 14 = -8$

   絶対値が大きい−14の符号が残ります。

3. −5

   $-9 - (-4) = -9 + 4 = -5$

4. −10

   $-3 + (-7) = -10$

5. 12

   $0 - (-12) = 0 + 12 = 12$

6. −3.3

   $2.4 - 5.7 = -(5.7 - 2.4) = -3.3$

7. $\frac{1}{4}$

   $-\frac{2}{4} + \frac{3}{4} = \frac{1}{4}$

8. $-\frac{7}{6}$

   $-\frac{5}{6} - \frac{2}{6} = -\frac{7}{6}$

9. −1

   $7 + 2 - 10 = 9 - 10 = -1$

10. −1

    $-4 + 9 - 6 = 5 - 6 = -1$

11. 9

    変化は$3 - (-6) = 9$です。温度そのものと変化の量を区別します。

12. −350

    500 − 850 = −350

    基準より350円少ないことを表します。

13. −6 + 2

    ひく数−2と符号が反対の2をたします。はじめの−6は変えません。

14. −4 − (−7)を−4 − 7に直したところ

    最初の変形を−4 + 7に直します。正しい計算は−4 + 7 = 3です。

記述問題の解答・確認の観点

−7 − (−11)を、加法だけの式に直してから計算してください。どの数の符号を変えたかも書いてください。
−7 + 11 = 4。ひく数−11と符号が反対の11をたす。
最初の−7を保ち、ひく数だけを反対の数に直しているかを見ます。

ある計算で「−2 + 5 = −7」と書きました。最初の考え違いを説明し、別の方法で答えを確かめてください。
符号が異なるので絶対値をたさない。5−2=3。数直線でも−2から右に5進むと3になる。
結果の訂正だけでなく、異符号の加法と数直線の確認が結び付いているかを見ます。